

数字でみる 大阪万博

大阪府吹田市の千里丘陵に集まった世界の国は76カ国。国内外合わせて115館のパビリオンが建てられた。数十万人の人々が毎日訪れた会場は、まるで一つの都市だった。使った電気や水の量、出したゴミの量もハンパじゃない。迷子になった子どもやお金の落とし物も、けた違いに多かった。

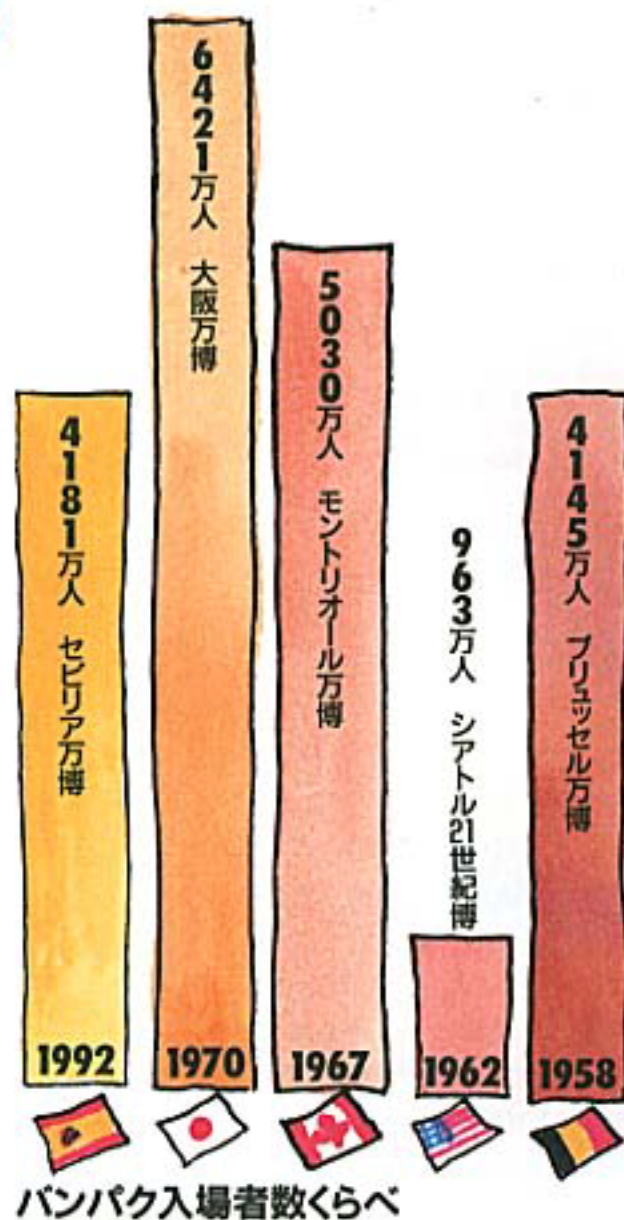
入場者数は万博史上最高!

64,218,770^人

入場者数の約40パーセントが子どもたち。当時の小学生にとって「万博ずる休み」は公然のもの(館日記などは提出したようだ)。でも、一番人気のアメリカ館の「月の石」を見られた人は入場者の4人に1人だけだった。



一日の最高入場者数は835,832人。満員の名古屋ドームの観客20日分。



迷子になった子どもの数

48,139^人

コンピュータで探せる迷子ワッペンが威力を発揮。離れていてもテレビ電話で親子が対面して確認できた。実は尋ね人(大人の迷子)は125,778人と子どもより多かった。



拾われたお金の

48,924,577^円

最も多かった日が953,595円。少なかった日は59,239円。それにしても約4,900万円とは大金。お金は落としたりなかなか見つからないもの。ということは、落としたお金はそれ以上!



1日に使われた電力量

725,147^{kWh}

一般家庭の約200年分



入場料



100 100 100 100 100
100 100 100
大人800円



100 100 100 100
子ども400円



1970年の後楽園球場
指定席650円
外野自由席150円
1999年の東京ドーム
5,900円(ネット裏指定席)
外野自由席1,200円



映画料金(ロードショー)
1970年 700円
1999年 1,800円

カレーの値段

1970年ころの洋食屋さんのカレー

= 100 50 100~150円

大阪万博の本格派カレー

= 100 100 100 100 100 100 100 800円

1日に使われた水道量

41,202^{m³}

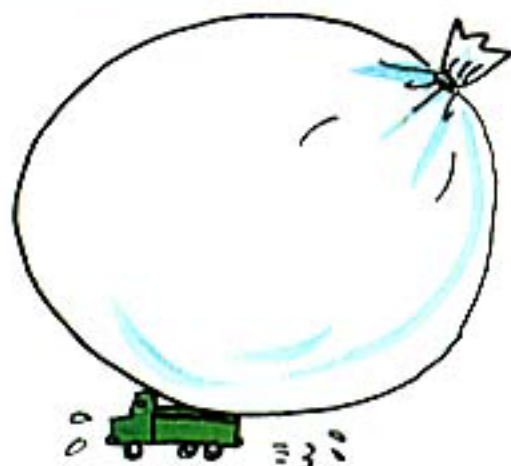
学校の25メートルプール約140杯分



1日に出たゴミの量

106^t

ゴミ収集車約66台分。
これは普通の家庭約36,000軒分。



セイロン館が500円、インド館がタンドリーチキンやナンがついて800円くらい(1,000円近かったという当時の小学生の記憶による)だった。いまならフルコースが食べられるほどの値段。